

1.1.4.3 教育方法のあり方

【評価項目 6-3-1】 授業形態と授業方法の関係

(必須要素) 授業形態と授業方法の適切性、妥当性とその教育指導上の有効性

(必須要素) マルチメディアを活用した教育の導入状況とその運用の適切性

(必須要素) 「遠隔授業」による授業科目を単位認定している大学・学部等における、そうした制度措置の運用の適切性

<2003年度に設定した目標>

今後とも、FDに関する研究会を中心に、時代の変化や学生の要請を考慮に入れて検討を続けていく。将来に向けての目標は以下のである。

1. FD研究会を開いて、授業方法の改善に努める。
2. 効果的なマルチメディアの利用法について、研究を重ねる。
3. インターネットを利用した授業運営を研究する。

ウェブ上で資料を配付したり、提出物を受け付ける、また、掲示板を利用して質問を受け付けるなど、学生の便宜を考えた授業運営を研究する。

(現状の説明)

学生の能力・興味・将来の目標に合った教育方法の工夫が、近年その必要性を増している。神学部学生の卒業後の希望進路は、教会担任教師、キリスト教主義学校教師、医療福祉関係のチャプレン、医療関係の企業の職員、一般企業の社員、海外留学など多様である。学生たちのニーズに合わせた教育方法の工夫・研究を進めている。FD担当者を招いての研究会を開催し、評価の重要性と必要性を改めて認識した。教員の中には、自発的に授業最終日に学生の評価を求めている者もあって、徐々にFDが浸透してきている。2005年度からは、全学一斉に、同一フォームでの授業評価を行うこととなっている。

授業形態は主として講義・演習・実習によって行われている。授業方法は講義形式、学生の発表に基づく討論形式、対話形式によっている。また、演習科目など一部授業を除いて全授業においてシラバスを作成し、授業の目的と内容をあらかじめ明らかにするとともに、必要な資料を配布し、参考資料を提示するなど、学生自身が自ら学ぶことができるよう、情報を与えている。

授業中の質問には誠実に対応し、対話を通して学修のきっかけを与えるよう努力している。授業においてはマルチメディアを多用し、パワーポイントなどを利用して、学生の理解を助けるよう努めている。

インターネットを利用した授業運営について、授業によってはeメールを使用してレポートを受け付けるなどしているが、それ以上の試みはなされていないのが現状である。

(点検・評価の結果)

神学部における授業は、概して、伝統的な内容と現代的な展開をバランスよく配したものとされているといえる。演習科目においては、履修者各自の関心に基づいた課題に取り組みせ、着実に成果を上げている。講義科目においては、担当教員が履修者の関心や習熟

度を見ながら、授業を運営している。

しかしながら、一般的に大学生は、情報を与えられることを望み、自ら問いを立て、その問いに対する答を見出そうとはしない傾向にある。このような学生に対して、履修者が積極的に授業に参画できるような形態を研究していく必要がある。そのためにも、授業評価を積極的に導入し、学生も、教員と協力して授業を作り上げるのだという意識を浸透させていかなければならない。

授業におけるマルチメディアの利用は、授業内容と教員のメディアリテラシーによって、大きく異なる。今後、研修会などを通して、教員のメディアリテラシーの向上に努める必要がある。

(改善の具体的方策)

授業評価によって得られる、学生からのフィードバックを基に、履修者が積極的に参画できるような授業形態を探る。その際に、今後とも、FD研修会、メディアリテラシー研修会などを定期的に関きながら、授業改善に努めていく。

1.1.4.4 教育成果のあり方

<2003年度に設定した目標>

6.4.1 教育効果の測定

教育効果を測るとは、学力および見識を持った学生を輩出し、卒業生が社会から認知されるかどうかで測定される。神学部は、伝道者育成という創立以来の目的に即して教育を行ってきたが、今後とも教育効果を上げるために、次のように行う。

1. シラバスに、各科目の到達目標、課題などを明示し、学生の学習意欲を喚起する。
2. 平常レポート、平常試験を実施する。これによって、学生の理解度・到達度をはっきりと確認することができる。

6.4.2 厳格な成績評価の仕組み（成績評価法）

1. 厳格な成績評価の仕組みとして、全学的に2005年度よりGPA制度の導入を決定している。これに基づいて成績評価を行う。
2. シラバスに明確な評価基準を示し、学生の学習意欲を喚起する。
3. 少人数の学部である利点を生かして、基礎演習、分野別演習、特殊研究演習などの演習科目を通じて、学生の質を確保する。

【評価項目 6-4-1】 教育効果の測定

- (必須要素) 教育上の効果を測定するための方法の適切性
- (必須要素) 教育効果や目標達成度及びそれらの測定方法に対する教員間の合意の確立状況
- (必須要素) 教育効果を測定するシステム全体の機能的有効性を検証する仕組みの導入状況
- (必須要素) 卒業生の進路状況
- (選択要素) 教育効果の測定方法を開発する仕組みの導入状況
- (選択要素) 教育効果の測定方法の有効性を検証する仕組みの導入状況
- (選択要素) 教育効果の測定結果を基礎に、教育改善を行う仕組みの導入状況
- (選択要素) 国際的、国内的に注目されるような人材の輩出状況